私の河川の想い出と第Ⅰ期委員になっての所感

江原　秀典

１．昭和３６年までの故郷

（１）青年期までの吉井川

私は岡山県津山市で育ち、家の横には用水路があり、用水路で小さい網を使ってフナ、タナゴ、ナマズを取るのが夏休みの毎日であった。

また、用水路には、カワセミがきて、水路に飛びこんで小魚を取る音が家の中からも聞こえた。懐かしい思い出である。

津山市の南側は吉井川が流れている。淵は、水泳禁止だが、それ以外は水泳自由であり、古式泳法の神伝流の水練場でもあった。

友達と誘い合わせて水浴び（水遊びと水泳）をしていた。小学１年生のとき溺れたが、すぐに三宅醤油店の番頭さんに救いあげられた。小学生が水遊びをするときは、だれかの父兄が監視していたようだ。

小学校の杉山近男先生は釣り好きで、いつも吉井川で釣りをしていた。夜は、カーバイトの灯を持ち、水面を照らしながら、吉井川の浅瀬で、やすで小魚を刺していた。早く大きくなってしたいものだと羨んで見ていた。

子供は、タニシや巻貝、小型の貝をつぶしたエサを、金盥に入れて、上に小さな穴をあけた布をかぶせたわなをつくり、川底にそれを沈めて、小魚を取って遊んでいた。

吉井川の土手には、桜が植えてあり、季節になると、町内の人が集まり花見をしていた。

七夕様のかざりのついた竹は朝早く吉井川に流し､精霊送りも吉井川でしていた。市民と吉井川は親しい関係にあった。

また、吉井川の横の八出磧では、中学生がグライダー訓練をしていた。

当時のプライマリグライダーで最高度まで飛んでいた。

私は、１年間グライダー部にいたが、何回もゴム牽でグライダーを引っ張り、一度か二度乗れるだけだったが、楽しいものであった。

冬は模型グライダーを飛ばしたが、作るのに１か月もかかる１ｍほどの精巧なもので、私のグライダーは、遠くまで飛び回収できなかった。楽しい思い出である。

（２）県下全域の河川

私は、昭和２６年に岡山県の治水事業所の次席になり、堰堤、床固堤の設計、水源林造成事業の企画、測量を担当した。

はじめは自転車で管内市町村巡りをしていたが、次はオートバイが配られ、最後はジープに乗っていた。

吉井川、旭川、高梁川の源流となる鳥取県境近くまで歩いた。

河川の氾濫は、在勤時にはなかつたが、それ以前の昭和１８年頃と昭和２０年の台風の際には、堤防がくずれ大災害があった。

治山事業所には、次席として３事業所に６年間勤めた後、岡山県治山課に転じ、県下全域の治山事業の企画と農林省との予算折衝を担当した。

当時の岡山県の河川は上流、中流は実にきれいなものであった。

特に、吉井川、旭川、高梁川の三大河川の河口は、それなりの清潔さを保っていた。

２．昭和３６年以降の東京の河川

（１）汚い河川

農林省に転じて東京中野の宝仙寺近くの公務員住宅に住んで、娘が幼稚園に通っていた頃、散歩の途中神田川を見て、「ここに桃太郎の桃が流れてきたの」と聞かれて驚いたことがあった。

「お婆さんが洗濯をした川だからもっときれいな川だった」と答えた。

東京の川は汚いと改めて私は理解した。

（２）石神井川

今は、石神井川が隅田川に合流する地点近くに住んでいるが、石神井川の河口付近におけるゴミは、潮の干満の影響を受けて僅かに（１００ｍほど上下）移動するのみである。そのゴミを清掃舟が時々網で拾いあげて処理している。石神井川河口のきれいな状況は、清掃舟の活躍によっていることでよく分かる。

平成４．５年頃は石神井川の川底にヘドロがたまっており、大雨で水嵩が増してヘドロが下流に動き、酸欠状態になったのか、一尺位の鯉が数十匹浮いて死んだことが３度ほどあったが、その後はこのようなことは起こっていない。

王子駅から下流部分の石神井川は首都高速道路王子線の工事に関連して、石神井川の流れの位置を変更する河川の改修、周辺の整備が進められている。

ところで、石神井川の側壁が道路より高くなっている部分が、板橋区、北区の各所で目立つ。

水に親しもうという標語は、ここでは生かされていない。

地球温暖化防止の視点も考慮して、私は側壁部分の緑化を提唱している。

とりあえず、道の河川の側壁に近い部分に、ツタ性の植物を植えてそれを育てるようにしたらよい。

他の河川の側壁処理状況をみても、緑化対策など手をつけてないところが多い。

先進地を視察すると申しても、東京ほど人家が河川に迫っている先進地はないので、私たちで考えるほかはない。

河川周辺の整備のテーマで、関係者が協議して最終目標のデザイン、中間のデザイン、とりあえずのデザインを決めることを提案し、第１期の石神井川流域連絡会委員の所感としました。

第Ⅰ期石神井川流域連絡会についての意見及び感想

清水　孝彰

１・討議内容について

全体の約半分は河川整備計画についての話し合いとなった。荒川をはじめ、国直轄河川でも河川整備計画が未策定であるところが多い中、流域連絡会を中心として市民と共に河川整備計画の策定を進めた都に対し、敬意を表したい。河川整備計画は今後の石神井川の河川整備や市民参加の基本となる計画であり、流域連絡会の議題の中心としたことはよかったのではないか。

但し、第七回流域連絡会では、住民・学識経験者・委員の意見が整理され資料提供されたにもかかわらず、流域連絡会として何らかの合意点をまとめることができず、質疑応答・フリーディスカッションに終わってしまったことは残念でならない。

市民主体で討議テーマを選定できなかった点が反省材料である。第二・三回の現地見学会は、その後の連絡会での討議テーマを探すことが目的の一つである。見学会終了後、討議テーマについての簡単なアンケートを委員にとり、テーマを選定していれば、市民側からの情報提供なども少し積極的な議論への参加が図れたのではないか。

次期の流域連絡会では、河川整備計画のような河川全体に関わるテーマと、上流・中流・下流からそれぞれ１箇所くらいずつ個別具体地区を選んで議題とできればよい。このうち下流については、高速王子線・あすか緑地の箇所で河川整備が行われる計画があり、第一期で見学はしたが討議が不十分なので、次期に検討を引き続きたい。

雨の中、丸一日歩き通した現地見学会は今でも強く印象に残っている。次期でも、徒歩による見学会を是非実施したい。

２・会議運営について

第四回から開催時刻が夜間になり、勤労者としては参加しやすくなった。その他にも、委員の意見で事務局が柔軟な対応をとってくれたことはありがたかった。

テープ起こしによる議事録は貴重な資料であり、会議に欠席した時でもその様子がわかるので、今後も継続して頂きたい。

座長は行政委員が勤めたが、例えば、第七回流域連絡会のように何らかのまとめを導き出そうとする際に、行政の立場があると議事の主導が難しくなると思う。議論を活発化するためには、市民委員が座長を務める必要がある。

第一期の運営は全体的に事務局（行政）任せとなってしまい、活発とは言い難かった。検討テーマの選定も含め、市民委員が運営に関わる部分を広げていくと、流域連絡会はより活発化していくことと思う。

以　上

第Ⅰ期石神井川流域連絡会を終えて

田村　元雄

平成 13 年 5 月 22 日の「準備会」から約 2 年が過ぎた今、非常に短い期間であったように感じています。

当初、年 2 回程度の会議開催の予定と言っていたのが、2 年間で合計 7 回に及び、最終回として 7 月 30 日に開催されることになったわけですが、それなりの成果は見られたように思いますし、もう少し煮詰めておいたほうが良かったのかなとも思います。いずれにしても開催回数は適当だったと思います。

また、「第 1 次石神井川流域連絡会」の委員に「第 2 次」の委員を継続してほしいという要望には賛成です。ですが途中から顔を見せなくなった委員も数人おります。それらの方々は、それなりの事情があって欠席されたのでしょうから、今後の出席はやはり無理なのではないかと推察されます。そこで提案ですが、会議への出席が無理であった委員（例えば見学会を含めて１/３以下しか出席出来なかった方）には退陣していただき、新たな委員を募集したほうが良いのではないかと思います。各委員の方々が、多少なりともそれぞれ自己を犠牲にしながらも出席し、石神井川を少しでも良くしようと参加されていると思うと、それくらいの選択は必要だと思います。

新たに委員を選定するに当たっての提案ですが、一般公募も良いとは思いますが、現行委員の推薦という方法も考えられないものでしょうか。石神井川に関して何らかの関わりを持ち、活動しているような方を推薦していただければ、より充実した連絡会が構成されると思うのですが、----------。

以上、私の感想とさせていただきます。

第Ⅰ期についての感想

秋山　榮子

三月十八日付、第七回の会議録を読ませて戴きました。

委員の皆様の意見や事務局の回答を伺って、もっとも気になっている、かみそり護岸にせざるを得なかったことに対し、少しは、理解できたと思います。とても、すばらしい意見が集約されていて、私の考えていることも、ほとんど網羅されているのを感じました。

その中に、「川に親しむ」ということや「総合学習」につなげていければいいと言う事が話し合われたようなので、役に立つかどうかわかりませんが、少し述べさせて戴きます。

「善福寺川リバーサイドウオーク」について。

2000 年 3 月に行われた「善福寺川がつなぐ、人、水、いのち」の実行委員会主催のもの。これには、杉並区の行政や東京都環境局、東京都環境学習センター、その他の後援があったと思います。午前中は川に沿って応募した区民（大人、小人）がグループごとに、リーダーとウオークを行いました。午後は、区内の松の木小学校で善福寺川の巨大マップ作りが行われ、川とその周辺をテーマに学習した五っの小学校が発表をしました。又、水質調査や、ミニ水族館を展示しました。（生き物はその後、元の川に戻されました）　私も午後の部は参加して、受付と東田小学校の研究テーマの発表をしました。

善福寺川は、杉並区の善福寺公園から区界にもあたる神田川に合流しているので石神井川のように、小平市から北区までの川とは、比べてみても無理があるのは解りますが、各市や区が同じような内容で、ブロックごとに巨大なマップづくりを一般市民や、小．中．高
校生にも参加してもらえば、川に対する親しみや理解度が増すのではないかと思います。

例えば、石神井川周辺の学校に協力してもらい、総合学習に取り入れてもらってはどうでしょうか。その手順として、東京都の環境学習センターから通知を出してもらうか、又、私の所属している N．P．O 法人環境学習研究会の情報紙に掲載すれば、お手伝いのスタッフを集める事も出来ます。

善福寺川の「リバーサイドウオーク」の参加校の一つ東田小学校では、善福寺川上流探検隊、下流探検隊など、児童、先生、父母、そしてサポーターの私達で、それぞれのグループごとにテーマを決めて、川の環境や、まわりの自然との関わり合いを子供の視点で、図にまとめたり、人形劇にしたり、クイズを作ったり様々な発想で話し合いました。

こんな事も出来たらいいと思います。

二年間、委員の皆様や行政の方々と勉強させて頂き、有難う御座いました。

平成 15 年７月３０日

２００３．０７．１４

石神井川流域連絡会に参加して

練馬区　海野　幸雄

４年前に、石神井川のそばに引っ越してきて、つねづね石神井川をもっと身近に感じられるようにしたいという思いで、当連絡会に参加させていただいてから、すでに２年の月日がたったかと思うと、「あっという間だったな」というのが正直な感想です。

まず、第四建設事務所の担当の皆様にお礼申し上げます。

では、２年前に自分と、特に石神井川に対するかかわりが深くなったか?と自問してみますと、自分が思っていたようにはできなかったというのが正直なところです。チャンスはあったのにです。

ただひとつ、成果として残せたのは、「茜橋わんど整備案」でした。素人の思いだけで書いたポンチ絵ですが、結果として、「何も残せなかった」ではなかったことが、個人的にはうれしいことです。

その他は、ほとんど受身でしか活動できず、皆様のご期待に添えなかったのは残念ですが、仕事が予想以上に忙しくなってしまい、後半一年はほとんど会合にも参加できませんでしたが、仕方ないかなと思っております。

皆様の成果物の作成には、ほとんど関与できなかった私ですが、１点のみ要望がございます。それは

「側道から、川面がよく見える石神井川にしたい」

ということです。

人は、橋を渡るとき、かならず川面を覗き込みます。なぜでしょう。癒されたいのだと思います。水や生き物や植物に接したいと思っているのです。

現在の神田川等の改修状況をみますと、「側道の川がわに植栽」されていたり、「欄干（手すり）が高い」、あるいは「川面が透けなくてみずらい」という印象を強くもっています。

石神井川はそうでなく「人々の視線から自然に川面が眺められる」改修としていただきたい。

以上、簡単ですが感想文とさせていただきます。

参加者の皆様、ありがとうございました。

１．第Ｉ期を省みて一言

１）　各地域別行政委員に事務局は何を期待して居られたかが、私は理解できず終回となります。……

２）　各地域行政委員はもっと多方面に関して発言（リポート）すべきではなかったか。（担当範囲だけとか活動とか……）

３）　河川の拡幅計画に関して、東南アジア地域に技術指導ボランテイアで行ったとき、大洪水で何日も行動できず、護岸工事の必要性を、体験した事を改めて思い出し勉強になった。

４）　安住生活を送るうえで水害事前対策計画の必要性を理解させるために、われわれ委員にもっと計画推進に向け積極的に行動するよう要請されてもよかつたのではないか……

　また、小グループの文化会的な進め方も再考慮すべきと思う。

５）　川には、それぞれ懐かしい物語と想い出、それぞれの歴史と文化を形としてどう残していくか。これらをどのように調和するかの議論があっても……

６）　近年、都市の緑が大幅に減少したので、雨が降った際に地表の浸透力が、大幅に低下するなど変化した。これらの事実をもとに、石神井川における拡幅工事の計画の必要性をもっと都民に訴えるべく皆なで討議しなかったことを反省した。

私の青春を思い出し、またいろいろと勉強になり心から敬意を申し上げます。

2003.06.28

三　浦　　清　喜

流域委員会第Ⅰ期の終わりに

西東京市　　吉　村　　理

私にとって市民の資格で関わる、はじめての活動がこの流域連絡会でした。
仕事の繁忙期と重なり、何度か挫折しそうになりましたが、事務局の方々のアシストと河川そのものの面白さとに助けられ、なんとか最後まで漕ぎ着けることができそうです。

いろいろな資料や説明を頂戴し、工事現場まで見学させていただきました。自分個人としては、ずいぶん勉強になりました。

整備計画案に対し、部分的ですが意見も提出できました。

残念なのは、それだけ事務局に手をわずらわせて育成していただいたのに、委員として力足りず、十分な活動ができなかったことで、これは流域の住民のみなさまに対しても申し訳ないような思いです。

ことに整備計画案に対し、市民委員側で相互討論ができなかったのが痛かった気がします。一、二の委員とはメールでやり取りして、なんとか意見交換会をしようと思ったのですが、お互いに都合がつかないままになってしまいました。今期の活動内容が、委員会において説明を受け、資料をもらい、散発的にそれらに対し文句（意見）を言う単線型の流れに終始し、市民委員同士の意見交流による円環型のより深まった対応が出来なかったのが心残りです。第Ⅱ期の委員会でこの課題が解決されることを祈ります。

河川行政の担当者側からみると、こんな対等なスタイルで、関係者でもない市民と付き合うのは初めての経験なのではないかと思います。ずいぶんと噛み合わぬ議論にじっと耐えるといった感じだったのではないでしょうか。永い目でみれば、この経験は業務の進展に寄与することと思います。懲りずに第Ⅱ期委員会も、引き続きこのスタイルを踏襲されんことをお願いします。終わりになりますが、事務局のみなさまに感謝いたします。有難うございました。

２００３．０７．１５

第Ⅰ期での感想・意見

羽鳥　謙三

感想

１．　毎回の会合を通じて行政の計画や施工実績を伺い知り得たことが多く有益でした。

　また、多くの各意見側からの意見に触れたことも参考になりました。

２．　とくに現地見学会は実地を見ることができて参考になりました。

意見

１．　すでに前回提出したプランに述べた所と重複しますが、河川活水面と地下水涵養面とは並列的、一体的な問題であろう、ということです。

２．　その地下水涵養手段として雨水吸収装置（方策）に対する地下水汚染の懸念に対して従来どのような汚染の裏付けが確認されているのか。

　また、雨水の直接吸収によって、どれほどの汚染が予想されているのか（量的に）そういう危険予測の根拠が分らない。

　ただ単に「汚染する」という言葉だけが習慣的に語られているだけではないのか、という疑問があります。